

祭 七 十 四 年 之 命 大 人 一 郎 敬 積 保 故
 祭 七 十 五 年 之 命 自 刀 大 宇 積 保 故

祭 靈 慰 燈 万

大和の光

10月号

《発行所》
 大和教団
 仙台市青葉区錦町2-4-24
 大和教団本庁
 電話(代)022-261-2525番
 振替 仙台 02220-3-45512
 発行人 大和教団 定価50円



神 紋
 八咫鏡と太陽を
 かたどったもの
 で、国家の隆昌
 と世界の共存共
 栄を意味してお
 ります。



大和の霊
 霊 自 分 の 存 命 中 に 自 分 の 肉 体
 と 魂 の 供 養 を し て お く こ と
 の 大 和 残 せ る 道 と な る 。
 (大和神典 第四之四一七言)

台風の動きにて九月一日の月始祈願祭は儀式のみ奉仕、特別講習会は三日に繰延させて頂いた。一日は台風がそれて天候は晴れとはなつたが要鎮の結果にて詮なきごとと。
 三日の講習では三時間半の学習となった。根本教育の中の生命の章を解き、引き続き信奉者担当教師と助勤者の仕事の詳細を一から説き示す。何度となく私が説き示すも、ほとんどが実行をせずにての事ではあるが私の指導する仕事ができぬは道の開き難しと厳しく教導す。教師等は途中トイレに立つ者はいなくなつたはそれだけ集中、学ぶ心と転じたものと判するものではあるが。半歩前進するかと期待するものである。祭事行事等にて夫々の立場の仕事に責任をもつて全うするを諭す。まだまだ私より云われての仕事にて、早くに自らの責任にて事を為す力を希つていくが。
 九月十五日予定されし、綾里白浜契約会の会合はコロナ感染者が出て延期となつた。日には未定なり、前日、総長の方へ別当さんより大変申し訳なきのお詫びの言葉があつたという。これも神の任にはあることと。
 十六日には予定通り秋の御霊祭りである万燈慰霊祭が午前十時より副親齋主にて斎行される。顧問の相澤光哉先生がご多忙のところご参列となり、お会いすること叶わずにて大変心苦しく思うばかりである。本年は御神許のもと夕刻よりを、午前十時三十分よりとさせて頂いた。予報では悪天候であつたが、少し変じ参

列信奉者には支障なきを得たは何よりであつた。本年は更に幽幻の境を醸す美しき装飾の祭場にて六千五百余柱の御霊の慰霊が奉行された。ご先祖、関縁、諸霊の霊等も慰められたものと信念すものである。
 併せて祖父こと大和惟神之祖神と称え奉る保積敬一郎大人之命の七十四年祭、祖母こと大和之脇祖と称え奉る保積チヤウ大刀自之命の七十五年祭も併祭された。教母さん下山、帰宅なし、祭壇も大変綺麗で儀式もよかつたで、信者の皆さんも大変喜ばれ感動されておりましたとの有り難い報告を受けた。
 二十一日、二十二日は秋の御行である六根大行が行修された。第一日は修行奉告之儀より、四人の教師

が先達となりての拝神行。気吹、天之鳥船行事をなす。第二日は先ず御本殿参拝、続いて祖霊殿に移りて千家達彦先生の九年祭を申し上げ、祈禱殿で第五座目を行修す。
 食事後、靈之元國大和祓禊神之宮(ひのもつとくにたいわみそぎかみのみや)万象館道場にて、天真名井(あまのまな井)の水行を行修し、結びに一時間十五分程の時間にて、教主が六根大行の目的、意義の御教えに基づいて深きを感懐述べられた参行者も行の尊さを感懐されたものと。山に帰山なしての終了奉告祭後の参行者の体感談にても漏れ聞くものとなつた。私自身も年々に更に深きを智覚(さとし)るものにて行の



深きを、尊さを感懐、感体するものである。己の身魂の清まりの進化向上に相応しきを神々が授け下さるを悟證すものである。奇すしき大神の授け給える御行なればこそと深く謝すばかりではある。私も大いなる学びの六根大行とはなつた。
 行明けの二十三日、教務部長、須田、釘持教師が富山へ出立した。二十四日より二十九日迄、富山の方々の困りごと相談会が開かれる。見知らぬ地での相談会開催ではある。相談者を募る方法は新聞折込み九千部余だけである。一人も相談者が来ないかもしれない。そんな中、瑞詮寺道場の建設をなされた栄工社社長の坂井誠之さんが二人の人を誘いて下された。有り難き事である。此度の出向も八月に総長と須田教師が瑞詮寺に出向した折り、須田教師に坂井社長が「瑞詮寺にて一泊で帰仙するのでは。せめて一週間位滞在すれば人を導くことができるやも・・・」と漏らした言葉を聞いての即時即断の実行であつた。私の心に響きし大神の神告げと拝すものであつた。ま

ずは十一月までの三カ月にて、夫々五日間の滞在の計画を立て、新聞折込みチラシの広宣とした。経過は来月号にて報告したいと思つている。
 大神のそして浄土宗瑞詮寺創立者である我が保積家先祖の教順尼僧等の幽界よりのみちびきを祈るものである。伝導教師の皆は、明るくお仕えなし、一人でもの方々に温かい心で相談者をお救いして頂きたいものと念ずる次第である。
 結びとはなつたが、元旦の大地震の復興途上にあられた能登地方において、此度の豪雨により犠牲となられた皆様へ心より哀悼の意を、そして被災地の皆様に心からのお見舞いを申し上げ、一日も早い復旧復興を祈らせ頂く次第である。
 令和六年九月二十三日
 教主 秀胤

故保積敬一郎之命七十四年祭 故保積チヤウ之命七十五年祭 万燈慰霊祭



齋主嗣親様による祝詞奏上

かび上がった。

大前には山海の神饌物や心づくしのお供物が供えられ、神前献供がなされ、祈りの声と共に風鈴の清々しい音色が殿内に響き、高天原を現成した。

午前十時三十分、参進太鼓を合図に、齋主嗣親様以下祭員が参進開祭詞が告げられ、修祓の儀が行われた。齋主祈念招霊之儀の後、参列者一同による御霊火献灯之儀が行われ、祭壇前に信奉者が奉持なされた御霊火が奉献された。引き続き、齋主拝礼開祖様御尊父・御母堂の式年祭詞が奏上された。

九月十六日、大國神社祈禱殿において開祖様御尊父・大和惟神の祖神と称え奉る『故保積敬一郎大人之命七十四年祭』開祖様御母堂・大和之脇祖と称え奉る『故保積チヤウ大刀自之命七十五年祭』、『万燈慰霊祭』が盛大に斎行された。

次に万燈慰霊祭祝詞が奏上され、大和帰神詞奉誦にて火水之清浄(ひみずのきよめ)、御神鈴清浄(みすずのきよめ)の神事が執行された。齋主玉串拝礼の後、総裁家、来賓参列者代表による玉串拝礼がなされ、齋主祈念昇霊之儀を以て祭儀は修められた。

祭儀後、本教団顧問の相澤光哉先生よりご挨拶を頂き、結びに嗣親様より御教話を頂いて、万燈慰霊祭は滞りなく申し修められた。

嗣親様御教話

皆さんご苦勞様でした。今年もこうして万燈慰霊祭の御慰霊の御祭を皆様と共に祈り、慰霊、供養をさせて頂き、誠に有り難きことと感謝申し上げます。

何時寿命を迎えてあの世に行くか自分では分かりません。今日はその世を司る神様、幽冥主宰大國主大神様に皆様のご先祖様、御祖の御霊様として、皆さんの因縁の御霊たち、永代奉斎・祖霊講の霊神、大和帰神合祀墓に祀られし霊神、美豆子の御霊たち、そして万物一切の御霊に感謝の心、真心を添えて祈り仕えます。

大和の教信奉者は 五人善導の奉謝行を 実践致します

開祖様の御尊父の保積敬一郎様は、開祖様に神の道、惟神の道をお導き下された尊きお方です。保積チヤウ

様も開祖様を常にお守り申し、三陸綾里の地にてご一緒に修行に入られ身のお世話を下され、修行を支えられし有り難いお方です。

寿命というものを静かに迎えるか、悔しさや恨み辛みを持って迎えるのか様々な亡くなり方があります。日本人の平均寿命は、男性は八十歳位、女性はもう少し長生きするといわれています。よく生きても九十歳程です。百年生きたとしても百遍の四季、春夏秋冬を味わうことしか出来ないのです。

皆さんは、お迎えが来た時に何を持っていくか。私たちがあの世に行く時にはお金や物を持って行くことは出来ません。心の思いしか持つては行けません。一生懸命働いて、世の為人の為、家族の為に貢献して、毎日を有り難い、有り難いと感謝して笑顔を表して、そうしてやってきた心の思いを持って行くことです。お金や物、財産、何一つ持つては行けません。

今日も万物一切の感謝の供養を致しました。自分の命の糧として、毎日あらゆるものを絶つて、私たちが生きていくわけです。それを忘れてはなりません。頂きます、御馳走様でしたという尊い日本の感謝の言葉があります。幽界に旅立つ時には全てのものに感謝して、家族にも感謝して、笑顔をもって、安らかにあの世に行きましよう。



嗣親様より御教話を賜わる

大和の神典より、説かせて頂きます。私たちに血が流れています。開祖様はその肉体の血と、霊体という目に見えないご先祖代々受け継いできた霊(チ)があると説かれました。「人間というものは血液の働き

の表れである。その血の流れが運命である。血の性質が変わらなければ自分の性格は改まることはない。一時的な性格の改まりはあっても、根本的な血液が変わらなければ、いずれまた元に戻ってしまう。性格の高い人と低い人、性格の善い人悪い人というものは、全て血液の流れから表れる。血の清めをすることが大事である。性格が善いという人は、血が清まっている人である。性格が悪いという者は血が濁っている人のことをいう。この目に見えない先祖代々から受け継いだ血、色々な因縁、善い因縁悪い因縁、その血が夫々、私たちに流れている。その血の流れの善し悪しが、病氣や災いとなって表れてくる。」と開祖様は教えて下さっております。

「今、不幸な運命、悩み苦しんでいる人は血液の濁りが悪い因縁となっていて、その働きが自分に表れている。業の強い者や悪因縁に苦しむ者は間違いなく血液が濁っており、清まっていけない。汚れた血のまま生きていくば、運勢は絶対に強まることはない。運勢は好転せずかえって下落していく。」とも開祖様は申されました。

汚れた血のまま生きていけば、それが悪因縁となつて悪い結果を及ぼすだけでなく、悪果によつて血は増々汚れていき、さらに悪因縁をつくつてしまいます。

その血は子孫に流れていきます。それをよくよく思ってください。血を清めて悪因縁を子孫に残さないために、自分自身がより良く生きていくために、今日のように供養、慰霊という道があります。今日の皆さんの祈りは自分の血の濁りを清めて、先祖の霊を清めて、御霊の霊を清めていく尊い祈り、供養、慰霊なので、自分の血を清めるために祈り、

供養、慰霊又は祈禱をするのです。この清めこそ大和の信仰であり、皆さんが善い因縁を残して悪い因縁をも自分が気付いて清めることが出来ます。断ち切っていくことが出来るということです。それが大和の祈禱、供養です。皆さんはずっとそれを行つていきますから、善い血をめぐらしていくことが出来ます。根気強い努力、信念と実行が大切です。「神様の御教えのままに生きてゆくなれば、知らず知らずのうちに性格は良くなり血液は清められて運勢も強まっていくことになる。善因をつくつて、善徳を積むことによつて、血液は清まっていける。」と。

今日のように開祖様は御教話を下さっています。今日の御灯り供養は自分の魂、肉体、精神、そして霊界も現世も明るく照らしてくれる尊い大御祭なのです。これからも明るく楽しく自分の命というものを表してもらいたいものです。

今日の慰霊祭に参列させて頂くという真心がご先祖様にしっかりと通じて、諸霊諸魂に円満にはかられて、不測の事態、災難から逃れることが出来るようになります。生きながらにして、皆さん自身の御霊と共に供養されているということです。

「我が身の供養は先祖の供養、先祖の供養は我が身の供養」これを忘れずに大國主大神様に導かれて、そしてあの世に入る所には開祖様がいらっしゃる。手を伸べて下さい。そして大神様の元に帰して頂いて楽しく、明るい世界で生きることが出来ます。

今日は皆さんと共に祈り、供養をお仕え出来て私の心も本当に明るくなりました。皆さんも笑顔をもつて多くの人を教団にみちびきお救いして下さい。今日はご苦勞様でした。

立教八十年に向けて大和の御教えを天地に満たしましょう

大和の信仰で笑顔のこぼれるような家庭を築きましよう

身体加持祓三種祈禱 六根大行



教主様を真中に参行者一同記念撮影

九月二十一、二十二日の両日に亘り、大國神社において大和教団三大行である六根大行が行修された。

第一日目は先ず、嗣親様先達にて、幽顕界の参行者が嗣親様によって大前に言上げられ、幽顕和合火祥神事が執行された。御神火は幽顕界一切の邪霊邪気を祓清め、三界調和の和合をなす神秘の火祥神事を拝し奉った。

次に、身体加持祓三種祈禱秘詞教本が此度新たな参行者に伝授され、後、祈禱殿大前にての記念撮影が行われた。

続く第一座では、畠山真由美教師先達により、身体加持祓秘詞、三種神言、六根清浄大祓詞、加持祓詞、三種大祓詞、神語奉称、産霊の気吹をなし、身体を祓清められた。

第二座は品川弓教師が先達となり五臟加持祓秘詞をもって、第三座は熊川教師が先達し邪気五臟六腑加持祓秘詞をもって

厳修された。引き続き、第四座を田中道敏教師が執行した。一日間の参行者に準参行の証が授与され、嗣親様による教話を賜り大和教団の一つである、感謝について特別講義がなされた。この後、清掃奉仕、夕食となり、一日目は早目の就寝となった。

第二日目、まず御本殿にて嗣親様先達のもと早朝参拝を行い、祖霊殿へと移動、本教大國講名誉総裁であらせられた故千家彦彦大人之命の九年祭が厳かに斎行され、斎主嗣親様により祝詞が奏上され、一同感謝の誠をお捧げ申し上げた。祈禱殿に場を移し、田中道敏教師先達による天鳥船神事を行った。次に第五座結行座を横尾匡彦教師が先達となりて修した。

この後、参行者は朝食を済ませ、マイクロバス等にて仙台市泉区館の大國神社霊之元國大和祓禊神宮に移動した。水行を男性は白禪、女性が行衣姿となり、天真井祓禊にて五臓六腑を清めた。水行は二班にて執行、道場に復して拝神行をもつて修した。その後、教主様の特別講義を賜り大和教団より、宇宙と人体の関わりを説かれた。参行者は初参加の人も多く、興味深く心して聞き入っていた。

神社祈禱殿大前に復し、修行者の感想体験談が発表された。嗣親様よりの一人一人へのお諭しを戴きながら、改めて行の尊さを修学した。修了奉告祭を奉行し、二日間の成満者に修行の証が授与され、嗣親様より

結びの御教話を頂いた。後、参集殿へと移動、直会をお仕えし滞りなく終了した。大神様の御蔭に心より拝謝する次第である。

教主様御親教

四拍手、この拍手も天地開闢(かひびやく)の一神事を顕しております。天と地を開き二分した訳です。私たちはお母さんのお腹から生まれました。この世に生まれることも天地開闢の神事の一つです。

行の葉の一頁を開いて下さい。六根大行は「私たちの眼・耳・鼻・舌・身・意より入る、諸々の穢れを祓清め新たな身魂の蘇りをはかる行です。」とあります。



教主様より御親教を賜る

それでは魂(たま)とは何でしょうか。精神、心とは。この世の仕組は陰と陽に分かれ事成りますが、天と地の仕組はその始まりの教えなのです。修行とは自分の魂と身、肉体を清めて参ります。本教の三大行は、みそぎ大行、六根大行、十種大行と三種が神伝されております。



天真名井による水行が厳修された

肉体を清めることを外清浄、見えない所を清めるは内清浄と言います。魂(霊体)を清めていくのが信仰の力ということなのです。

言葉とは何でしょうか。音声と文字の二つの働きです。おやさまは、「言葉ほど尊いものはない、また恐ろしいものはない」と説かれました。特に日本人は言葉には不思議な力があると感じております。言葉の幸栄う国と古の人は言いました。

我々の人体は宇宙の象奇(しじょうき)と称え、奇麗なる形、不思議な有り難い体を頂いています。

大和は天地の力を頂きて神身(かみ)と成る信仰です。日々の祈りと感謝と奉仕を實踐することにて、神身現成(かみげんじょう)となる信仰です。この拝神禱に、「天界地底踏破卓立 此の身此のまま神身となる」とありますが、家庭でもこれをつけ、魔を防ぐという冠(鉢巻)をつけ、魔を防ぐという冠(鉢巻)をつけて拝んで下さい。我々には霊体があります。昔から、災い転じて福となす」と言われておりますが、これこそが信仰の一番の力でしょう。祈ること、信仰の力で自分は神身となる。祈りと感謝と奉仕の生活の

実践を示してありますが、行うのは全て自分自身です。正しい祈りは神様、神霊と通うことの清明なる声で唱えることです。魂は滅びることなく永遠に生き続けます。昔よりお盆がくると迎え火や送り火を行います。日本人は素晴らしい感性でそれを感じております。地球を人体とすると日本は胎児です。北海道は頭、首は青森、心臓は岩手から宮城あたり、房総は右手、今大変な能登は左手、四国は右足、九州は左足、富土山は腹・へそ、近江は子宮と、五体の全てが揃っておるのです。日本だけがこの地球上の気候の全てを有しております。全体的には温暖な気候風土の中で、私たちは生命を育んでおります。子供は家庭の環境・社会の環境で育つと言いますが、それを支える本来の親や爺さん婆さんが、そして幼少期の教育者が残念ながら少なくなってしまうました。此の世で生きるには、器が必要です。神様や御霊の世界は象は見えませんが、しかしながら顕在しているのです。大宇宙に対して、人体を小宇宙と称えました。果てしない宇宙の創造の力の元霊である神を天之御中主大神と称え、その大元霊の力を陰と陽の働きに顕されて、陽の働きを司る高皇産靈大神、そして陰の働きを司る神皇産靈大神とに分掌されました。

太陽系宇宙の中に我々は存在します。中心は太陽、地球は自転活動をして公転し、どの星球とも争いは決してありません。太陽系軌道を崩すことなきバランス、大調和の世界を教えられています。二十四時間寸刻の休みなく働き続けられる。私等の五臓六腑も休みなく働かれています。それが宇宙の法則です。この体を支えるために食べ物を頂きます。日本人は頂くときには、「頂きます」「食べ終わると、御馳走様」と唱えます。御馳走様の六音はその半分が敬語です。男らしさ、女らしさを表しているも日本語です。日本人の素晴らしい言葉の種を残せば立派に育ちます。子や孫に大和という尊い信仰の教えから、短い言葉で良いから、これはこうだよと、教えの言葉を残してあげる勇気を持つことです。そうでなければ、その時それだけの御利益、御神徳で終わります。生きていけば次々と問題は生じます。そういう災いを大和の信仰の力で転断していかななくてはなりません。直接神様からの教えをもって、私等は生き抜く力と出来るのです。言葉は音声と文字、これを覚えて下さい。人は神なり、神は人なり。全てその霊性はつながるのです。言葉や自然音を感じるの左の脳で言語脳と言います。日本人はこの脳の働きが優れておるのです。科学的なものは右の脳の働きでこれは西洋人が優れていると言われております。少しく心も体も丈夫になし、力強く生きていくだけの生命力を、大和の信仰でしっかりとつくり上げて頂きたいものと希う次第です。皆さんも幽世に行けば少しは分かります。拝神禱も使つて下さい。遠祖神恵み給め」とは、天地の神々よ恵み給へ、「祓い給へ清め給へ」は悪しきもの穢れを祓い清めて下さい、との願いが込められております。魂には、荒魂・和魂・幸魂・奇魂という四つの働きがあります。夫々に大きな働きをもっております。鎮魂の鈴もいつも使うことです。鈴の形は天と地に分かれ開いています。開闢です。振魂して手の中でころころ回します。陰陽(メノ)の世界、相反する力を頂く神器の一つです。日々の祈りを、感謝の心を、そして奉仕の力を養い、幸栄えの人生を歩んで下さい。必ず大神はお守り下さいませ。ご苦労様でした。



教主様によるご挨拶

九月二十九日午後四時より、東京都武蔵野市内の吉祥寺エクセルホテル東急、祝賀会場にて、合気道小林道場創立五十五周年記念並びに小林保雄総師範の米寿を祝う会が開催された。

明治大学時代、合気道部の監督であられた小林保雄先生に師事をうけた教主様もご招待を頂き、熊川祭儀部次長、田中教化部次長の随行にてご出席なされた。

当日は国内外から四百名程の合気道関係者、門下生らが参列され小林保雄先生のお人柄やご人望が感じられた。

教主様は会場に着くと行く先々で

合気道小林道場創立五十五周年記念 総師範小林保雄先生の米寿を祝う会



千家達彦先生への感謝の祈りが捧げられた



千家達彦先生

千家達彦先生を偲びて 九年祭の感謝の祈りを捧ぐ

六根大行二日目を迎えた九月二十二日、大國神社社霊殿にて本教大國講名誉総裁・出雲大社教統・出雲大社教第五代管長であらせられた、千家達彦先生がご帰幽、神上がりなされてより九年の歳月を経た。嗣親様先達のもと、参行者一同にて、綾瓊神歌にて千家先生のご遺徳をお称え申し上げ、嗣親様により感謝の祈りが捧げられた。

儀式後嗣親様より、開祖様の御心を、教主様が願ひ上げての千家達彦先生との奇麗なる御神縁を拝しての、千家達彦先生との思い出を偲び語られた。

参列者一同は千家達彦先生の本教へのおこころを心して、更にの世の為人の為に、お仕えさせて頂くことをお誓い申し上げた。

教主様は学生時代、当時明治大学合気道部監督であられた小林保雄先生との思い出話や、学生時代の様々な逸話、道場建設の柱立てをされた経緯等を紹介され、時に笑いを、時に懐かし昭和の時代を思わせるご挨拶であった。

乾杯のご発声とともに引き続きの会食では参加者はそれぞれに小林保雄先生の祝賀を寿ぎ談笑され、賑やかな祝宴となった。

お祝いの品の贈呈では世界各地の国々の道場から様々な送りのものが小林先生に贈られ、また各国の門下生から動画でのお祝いメッセージが流された。明治大学出身者が壇上へと



明大出身者の方々と校歌を熱唱される教主様

声を掛けられ先輩、同期、後輩、縁者の方々と懐かしくご談笑をなされ、また、開始の時刻までは、暫し主賓室にご案内を頂き、小林保雄先生、植芝守央合気道道主と歓談をなされた。開式の辞の後、小林保雄先生から主催者代表の挨拶がなされ、そのお言葉は都度英訳されて館内にアナウンスされた。

次に、植芝守央合気道道主、五十嵐道場主の五十嵐和男氏の順でご挨拶が申し上げられ、続いて、教主様による祝賀会乾杯のご挨拶となった。

誘われ、教主様もともに校歌・応援エールの大合唱とあいなった。

和やかな内に祝賀会は申し修められ、教主様にとつても恩師や同期、縁者の方々の懐かしきひと時を過ごされながらの心楽しき祝いの席となった。



玉光神社本山一博宮司とご歓談なされる教主様

玉光神社表敬参拝

翌九月三十日、教主様は武蔵野市井之頭公園の隣地に鎮座せる玉光神社への表敬参拝を申し上げられた。

本山一博宮司(新宗連理事)より丁寧なお出迎えを頂き、施設のご案内、ご本殿の参拝を修められ、暫しの歓談の時を過ごされた。

お昼は近くの隠れ家的スパイン料理店へと移動し、本山先生のご令室様、職員、武蔵野市も交えての会食の機会を頂き、美味なる料理と楽しい会話の中、ひと時を過ごされた。

九月十六日午前九時、万燈慰霊祭に先立ち、金剛蔵王大神社広前において、齋主嗣親様のもと金剛蔵王大神社年祭が斎行された。修祓之儀の後、御扉が開扉され齋主拝礼、金剛蔵王大神社年祭詞が奏上された。参列申し上げた崇敬者を始め一同

金剛蔵王大神年祭

九月十一日午前十時三十分、大和神光祈禱殿において、齋主嗣親様のもと延命長寿祈願祭が執り行われ、教信奉者の皆様の健康長寿を御祈念申し上げた。

祭壇には海川山野の種々の神饌物が供えられ、齋主嗣親様により延命長寿祈願祭詞が厳かに奏上された。齋主玉串拝礼の後、参列者による玉串拝礼が申し修められた。

大和の大神様の御守護を拝し、皆様の健康長寿を心より祈念申し上げる次第である。



信奉者の皆様の健康長寿が祈念された

延命長寿祈願祭

11月行事予定表	
11月1日	朔日火祥神事
11月2日	秋季立教例大祭前日祭
11月3日	秋季立教例大祭
11月5日	神光龍神祭
11月11日	親神感謝祭・祖霊万霊祭
11月15日	月次祭・五講祭
11月23日	十種大行(24日)
11月25日	開祖祭
11月28日	一年の御神託祭
11月29日	六根修養会
12月1日	朔日火祥神事
12月5日	神光龍神祭
12月7日	惟神道統百二十七年 開祖様御生誕百十七年祭
12月11日	親神感謝祭・祖霊万霊祭
12月15日	月次祭・五講祭
12月21日	冬至星祭
12月25日	開祖祭
12月28日	五段大祓之神儀
12月31日	大祓



齋主嗣親様による金剛蔵王大神への感謝の祝詞奏上

は祈り言を奉唱し、玉串奉奠を修め、一年間の大神様のご守護に心より感謝を申し上げます。